

予算額

2,084,379 円

地域課題解決に向けた取組

	取組の名称	高齢者の受身的運動から自ら楽しむ運動への意識改革				
	趣旨・目的	自らの意思で活動する事業参加率が低く、その結果次につながらない単発事業や単一種目のみの実施などが行われている。また運動をしていない人も多数。その運動をしていない人または受身的な運動をしている人に気軽に立ち寄れる空間をつくり、楽しく体を動かす習慣化を図る。				
	内容	各集落で月1回の出張教室の開催 ・10集落の公民館で開催。 ・時間は60分。 ・指導内容は、座位でのストレッチおよび筋カトレーニング、立位での簡単なストレッチおよび筋カトレーニング、他者とコミュニケーションをとりながらの脳トレーニング、マッサージなどのリラクゼーションなど。				
1	対象者	神林地区在住の高齢者(60歳以上)	参加人数	85名	実施回数	10回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 集落の代表者に協力してもらい教室案内や地域の放送を使い参加者に広くよびかけを行った。 後期高齢者、低体力者でも気軽におこなえるような指導内容とした。 来年度行政主体で行われる健康づくり教室のPRをおこない今後の健康作り教室の継続になるよう働きかけを行った。 				
	成果	今まで運動習慣のまったくなかった地域高齢者に対しての運動の意識付けを行うことができた。今後の積極的な教室への参加意識が見られた。				
	課題	各集落の公民館等での実施だったので、座位での運動に限られます。次のステップはバス等で足を確保し、体育館で開催できればもっと深い内容で実施できる。				

	取組の名称	運動をしていない人にスポーツ機会の提供(勤労者編)				
	趣旨・目的	平成21年に実施したアンケートでは、成人の週1回の運動実施率は33.3%、特に勤労世代の運動実施率が低い。その運動をしない理由は、きっかけがない、時間がない、情報がない、仲間がないが大半を占める。この「ない」を解決できる空間を創る。				
	内容	「20分間の運動」「仕事帰りの時間」ということで、仕事帰りに気軽に参加できる教室とした。また安価な参加費で運動をしていない人が集まりやすい設定とした。				
2	対象者	20～50歳代の勤労者	参加人数	59名	実施回数	30回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 時間のない人が参加しやすいように、1回あたりの時間を20分とし、仕事帰りタイムや低い参加費(保険料)設定として誰でも気軽に参加しやすい内容とした。 サーキットトレーニング、ボールを使ったトレ変えた。ーニング、ポールストレッチ、スタビライゼーションなど、参加者が飽きないようにトレーニング内容を毎回変えた。 				
	成果	今まで運動をしていなかった人がストレス解消も含めて定期的に運動するようになった。メタボ予防に運動を習慣化することが大切であると意識を持つようになった。				
	課題	20分の時間設定に少し、無理があった。もう少し時間が必要だった。				

3	取組の名称	子育て支援の連携				
	趣旨・目的	当クラブでは未就園児と保護者を対象に活動しているが、子育て支援センターでも同様の活動をしており、内容や日程など重複する部分がある。その子育て支援センターとの連携を図り、互いの利点を共有できる体制づくりを行う。				
	内容	子育て支援センターが行っていない運動的イベントを企画。				
	対象者	未就園児とその保護者	参加人数	9組 20名	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 案内チラシを子育て支援センターにも配布。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 子育て支援センターと連携を図ることでそれぞれの特性をいかした空間を提供することができ、未就園児とその保護者の心身の健康づくりに取り組むことができた。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 3月年度末だったため、参加できない親子もあった。開催時期の検討。 					

4	取組の名称	スポーツ情報の「速・広・詳」提供				
	趣旨・目的	当地域は広報誌からの情報収集が多数ある。しかし、広報誌の総合型掲載減少、広報誌挟み込みの制限、クラブ通信の全戸配布禁止、また高齢者においてはホームページなどの活用ができないなどで、情報提供不足となっている。スポーツ情報をより、速く、広く、詳しく提供する。				
	内容	今後のスポーツ情報をまとめたパンレットを作成し、市内全戸に新聞折り込みをする。				
	対象者	地域住民	参加人数	19,900世帯	実施回数	1回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 運動不足になりがちな冬に、初心者でも気軽に参加できる、楽しく体を動かすプログラムを掲載し、村上市全地区に新聞折込を実施した。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 広域的にチラシを配布することで多くの地区からの問い合わせがあり、各事業の参加率が上がった。新規参加者も増えた。新聞折り込みが注目度という点で効果的だった。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> プログラムが盛りだくさんだったため、テーマである「詳細」の部分が掲載しきれなかった。 					

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	5 校
---------	-----

コーディネーター総数	10 名
------------	------

◆効果を高めるための工夫や取組など

<ul style="list-style-type: none">・ 事前に学校の派遣希望内容の調査を行い、指導内容を明確にすることができた。
<ul style="list-style-type: none">・ 学校のニーズに対して体育活動コーディネーターを効果的に派遣できるよう、また安全管理上支障のないよう、当クラブと村上市教育委員会、学校が連携を図る目的で委員会を設置し、会議を開催した。
<ul style="list-style-type: none">・ 体育活動の指導補助が適正に実施され、また事故防止に配慮できるよう、体育活動コーディネーター間の情報共有を図るため、定期的にコーディネーター会議を開催した。
<ul style="list-style-type: none">・ プロジェクトリーダーが小学校と体育活動コーディネーターの連携、調整を図るため、「派遣依頼書兼計画書」や「実施報告書」を作成、活用した。
<ul style="list-style-type: none">・ プロジェクトリーダーが毎週、学校を巡回し、学校からの要望や課題に対処した。
<ul style="list-style-type: none">・ 当事業の紹介を、学校では市内校長会や学校たより等を通して取組み状況を報告してくれました。また、新潟日報にも取材依頼をし、県内に広く発信してくれた。

◆成果と課題

[成果]

<ul style="list-style-type: none">・ 事前の派遣希望調査を実施したことで、指導補助やチームティーチングの内容が明確になり、体育活動コーディネーターもスムーズに指導を行うことができた。
<ul style="list-style-type: none">・ 委員会を定期的に開催したことで、課題等の対処や支援方法の評価ができ、スムーズに実施することができた。
<ul style="list-style-type: none">・ 毎月、コーディネーター会議を開催したことで、実施する上での問題点や指導方法についてコーディネーター間の情報交換ができ、支援体制を統一することができた。
<ul style="list-style-type: none">・ 特に「表現」の授業で、実施前から学校の要望を確認することで、目標を持って実施できた。その成果を発表する場もあり、学校、保護者、児童、コーディネーターも満足することができた。
<ul style="list-style-type: none">・ 学校や地域と総合型クラブの信頼関係を構築することができた。
<ul style="list-style-type: none">・ 児童が自ら進んで苦手な種目に取り組む姿勢が見られ、コーディネーターとのコミュニケーションを図りながら運動に取り組み、意欲向上につながった。
<ul style="list-style-type: none">・ 担任の先生等にも刺激を受けていただいた。
<ul style="list-style-type: none">・ コーディネーターのスキルアップにもつながった。
<ul style="list-style-type: none">・ 苦手な児童、得意な児童などレベル別の対応をすることができたとともに、安全面での管理もできた。

[課題]

<ul style="list-style-type: none">・ 学校側から同一コーディネーターによる支援体制を希望されたが調整できなかった。今後、コーディネーターの確保が課題である。
<ul style="list-style-type: none">・ 年度途中からの事業委託であったため、本来希望している陸上や水泳の支援ができなかった。
<ul style="list-style-type: none">・ 市プラン体育科年間単元表に基づき、時期と単元を調整し、派遣予定表を作成したが必ずしもその通りにはならず、直前での変更が多々あった。事前調整する時間が短かったためと思われる。
<ul style="list-style-type: none">・ スキー授業に対しての対応が大変だった。専門的な能力のあるコーディネーターが必要であると感じた。
<ul style="list-style-type: none">・ コーディネーターに何を望むか、どこまで介入してよいのかなど、根本的な主旨を理解してもらう必要があると感じた。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ 小学校体育活動派遣事業を通じて、地域の若い指導者のスキルアップの機会となった。
- ・ 小学校体育活動派遣事業を通じて、学校、地域、家庭、行政、総合型クラブの信頼関係を構築することができた。
- ・ 地域課題解決の取組で、楽しい運動・健康づくりを地域住民にアピールすることができた。

〔課題〕

- ・ 人材確保を考慮すると、確定、継続可能な財源確保が必要となる。将来的には地域で取り組む問題であるが、現段階では早めの確定的な体制がほしい。
- ・ 事業終了後の精算であるが、今後、要望が増えたときに1年間の立替えは厳しい。
- ・ 事業の契約までに要する時間が長い。契約しないまま、事業準備、開始となり、不安がある。